

LPガスCP速報(2021年7月積)

1. 7積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **620** ドル (前月比+90 ドル)

ブタン **620** ドル (前月比+95 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が2018年10月以来の高値を記録するなか、LPガス需給は、中国の石化需要や韓国、インドの需要が堅調であるのに対し、サウジが6月後半~7月前半のLPガス供給削減を打ち出したことから需給タイト感が強まった。LPガス市況は、原油市況に引きずられるとともにサウジの供給削減で第2週以降急騰、極東CFR市況は、第2週には600 ドル を突破、第3週にはプロパン、ブタン620 ドル まで上昇した。

全米プロパンは、輸出、需要ともに堅調、高水準が続いている。大幅に減少した全米プロパン在庫は増加に転じたが、直近で前年同期比79%に止まり、5年平均レンジのボトムに(グラフ②)。に張り付いたまま。米モンベルビュープロパンスポット価格は原油市況の高騰に連れ高となり、第4週には500 ドル を突破、25日には542 ドル まで上げている、月平均では前月比75 ドル 上昇の502 $\text{ドル}/\text{トン}$ どころ(グラフ①)。

フレート市況は、前半は船舶需要が低迷需給緩和感から軟調に推移したが、産ガス国のアクセプタンスが出揃うと引き合いが強まり、船舶需給が引き締めり上げに転じた。

ナフサは原油価格に連れ高となり第4週末には670 ドル に達した。月間平均は645 ドル どころで、前月比40 ドル の上昇、ブタン急騰の背景になっている。

バンカーオイルも原油市況に追隨して上昇した。シンガポールIFO380は月間平均で前月比28 ドル 高の414 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同31 ドル 上げの589 ドル どころ、両油種の格差は175 ドル に拡大した。

7月CPは前年同月比プロパン260 ドル 、ブタン280 ドル それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタン9ポイントそれぞれ上昇、100%超えは3ヶ月ぶり、原油が急落した前年同月比ではプロパン21ポイント、ブタン15ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	52	45	46	48	48
CP先物指標：P	545	580	600	630	589
CP先物指標：B	535	580	600	630	586

② 原油市況等

6月の原油市況をみると、WTIは右肩上がりの5週連続の大幅上昇、25日終値で74.05 ドル と2018年10月以来の高値を付けた。新型コロナワクチン接種が各国で進み、経済正常化、需要回復見込みが増場を引き上げた。本格的なドライブシーズンを迎え、ガソリン、燃料需要の回復、過剰在庫の解消が顕著となってきた。コロナウィルス変異種(デルタ株など)の感染爆発リスクが不確定要素となっているものの、OPECプラスは下期の需要大幅増を見込み、5~7月の段階的減産規模縮小に続き8月以降も増産で合意する見通し。

米石油リグ稼働数は昨年4月水準まで増加(25日現在：前年同期比197.9%)、原油生産量は1,100万b/d超、製油所稼働率は92%まで回復、直近4週間の石油製品需要はガソリン(14.1%増)、留出油(18.9%増)、ジェット燃料(97.5%増)など急減した前年を大幅に上回っている。CFTC発表の大口投機玉の買越残高は22日時点では526千枚、前月末から35千枚増加、買い建玉は670千枚で前月末比31千枚増加した一方、総取組高は235万枚と前月末から16万枚減少、ヘッジ目的の当業者の建玉が大幅に減少、手仕舞われた。

○6月積みアラビアン・ライト(6月1~29日までの想定)は73.30 ドル (前月比+5.14 ドル)

熱量等価AL100% プロパン600.98 $\text{ドル}/\text{トン}$ ブタン592.74 $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン103.16% ブタン104.60%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

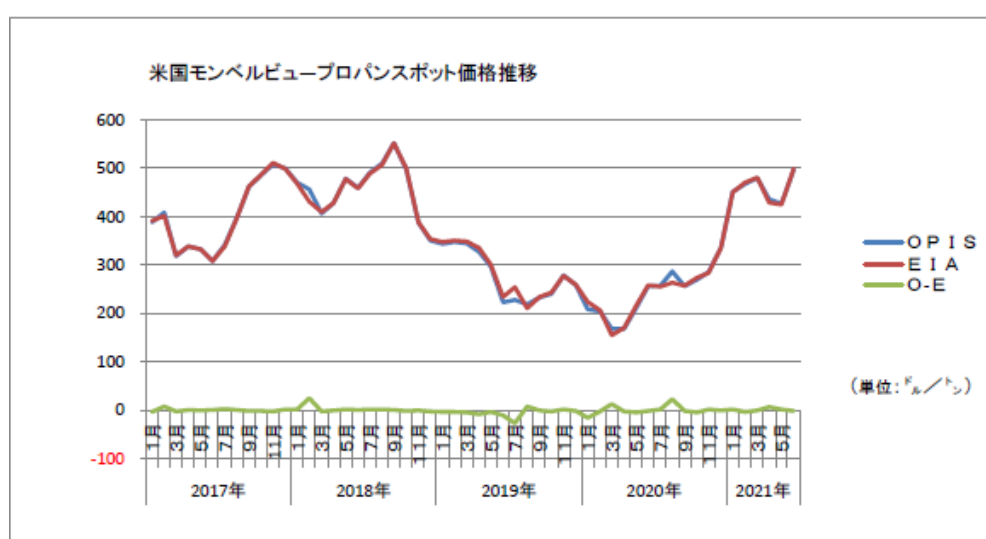
2. 2021年7月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	110.62	70,000	69,700	71,400	+7,300	+8,400	+7,700
②末日締め	111.13	63,900	63,600	65,000	+7,400	+8,500	+7,900

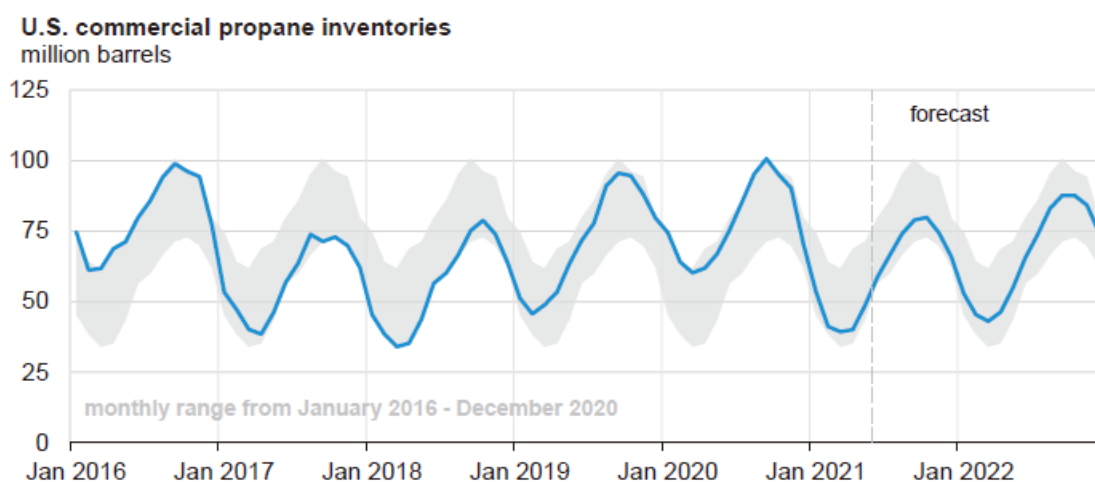
* T T S平均について、①が5月21日～6月20日、②6月1～30日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは6月28日までの価格を基にE I Nで試算（502ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米MBプロパンスポット価格推移



②全米プロパン在庫推移



Note: Excludes propylene.

Source: U.S. Energy Information Administration, Short-Term Energy Outlook, June 2021

